

化学物質関係の主な国際会議について

令和4年12月7日
大臣官房環境保健部
環境安全課

化学物質関係の主な国際会議のスケジュール

項目	会議名	現時点での日程
SAICM	第4回会期間プロセス会合（ルーマニア・ブカレスト）	2022年 8月29日～ 9月 2日（対面開催済）
	第4回会期間プロセス会合再開会合（ケニア・ナイロビ）	2023年 2月27日～ 3月 3日（対面）
	第5回国際化学物質管理会議（ドイツ・ボン）	2023年 9月25日～9月29日（対面） - 2020年以降の管理枠組みの採択
科学・政策パネル （化学物質・廃棄物・汚染防止）	第1回臨時公開作業部会（タイ・バンコク）	2022年10月 6日（パート1、WEB開催済） 2023年 1月30日～ 2月 3日（パート2、対面）
水俣条約	第5回締約国会議（スイス・ジュネーブ）	2023年10月30日～11月 3日（対面）
ストックホルム条約 （POPs条約）/ ロッテルダム条約 （PIC条約）/ バーゼル条約	残留性有機汚染物質検討委員会第18回会合 （POPRC18）（イタリア・ローマ）	2022年 9月26～30日（対面開催済）
	3条約締約国会議（スイス・ジュネーブ）	2023年 5月 1～12日（対面）
OECD	第3回化学品・バイオ技術委員会※1（フランス・パリ）	2022年 11月 9～10日（対面＋WEB開催済）
	第4回化学品・バイオ技術委員会※1（フランス・パリ） ※1 旧「化学品委員会及び化学品・農薬・バイオ技術作業部会合同会合」	2023年 7月10～13日（対面）
その他	G7鉛ばく露に関するワークショップ（ドイツ・ベルリン）	2023年11月 9～10日（対面＋WEB開催済）
	第16回日中韓化学物質管理政策対話（日本）	2022年11月30日（WEB開催済）

SAICM第4回会期間プロセス会合 結果概要

- SAICM（国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ※）の次期枠組みについて、2019年以来中断されていた交渉プロセスが再開され、第4回会期間プロセス会合（IP4）が開催された。

※「2020年までに化学物質が人の健康や環境への著しい影響を最小とする方法で生産・使用されるようにする」という2020年目標を達成するための自主的な取組

【開催日】 2022年8月29日（月）～9月2日（金）

【開催地】 ルーマニア・ブカレスト

【概要】

- 交渉テキストを大きく3つに分けて議論。
 - テーマ1：ビジョン、スコープ、原則及びアプローチ、戦略的目的とターゲット
 - テーマ2：組織的事項（ICCM、ビューロー、事務局）、実施支援メカニズム（多様なセクターの貢献、進捗管理）、懸念課題
 - テーマ3：キャパシティビルディング、資金的検討事項（基金、民間セクターの関与、事務局予算）
- 2019年時点の交渉テキスト（IP3成果文書）と2020～2021年のバーチャル作業グループ成果の双方を参照しつつ、**今後の交渉の土台となる統合版交渉テキストを作成。**
- 更に議論を進めるために、IP4を休会し、**2023年2月27日～3月3日に再開会合（IP4.2）を開催。**

第5回国際化学物質管理会議（ICCM5）への提言（案）

- IP4.1で作成された共同議長の統合版交渉テキストは、以下の要素から構成されている。

1. 序文

2. スコープ

多様な分野（環境、経済、社会、保健、農業、労働等）、及び多様な主体（政府、政府間組織、市民社会、産業界、学术界等）による化学物質 [及び廃棄物] 管理。

3. 原則及びアプローチ

2030アジェンダ、SAICMトバイ宣言等、既存の国際的な宣言や条約等を言及。

4. ビジョン、戦略的目的及びターゲット

3つのビジョン案、5つの戦略的目的案とそれらに向けたターゲット等

5. 組織的アレンジメント

ICCM・ビューロ・事務局の機能、Issues of Concern（仮称）の取り扱い

6. 実施支援メカニズム

国内実施、[国際・]地域・部門間協力及び協調、部門及びステークホルダーの関与強化、能力形成支援メカニズム、進捗把握、枠組みの更新・改正メカニズム

7. 資金的事項

統合的アプローチ（主流化、民間部門の関与、専用外部資金）、マルチセクター・パートナーシップの設置及び関与、事務局予算

ポストSAICMの戦略的目的（案）

- ポストSAICMでは、5つの「戦略的目的」、その達成に向けた目指すべき「ターゲット」及びターゲットの達成状況を測る「指標」が設定される見込み。
- IP4.1では、戦略的目的の一読と、ターゲット候補の抽出が行われた。

戦略的目的 A

[国][ステークホルダー]は化学物質と[関連する]廃棄物の[ライフサイクル全体を通じた][統合的な][適正な]管理を[支援][達成]する**能力、法的枠組み、組織的メカニズム**を備えている。

ターゲット候補（例）・ 害の予防・最小化のための法的枠組みと組織的能力の形成・実施・執行
・ 企業によるライフサイクルを通じた対策の実施

戦略的目的 B

情報に基づく決定及び行動を可能とするために、包括的かつ十分な**知識、データ及び情報**が、全ての人向けに生成され、利用可能で、アクセス可能である。

ターゲット候補（例）・ 化学物質に関する包括的な情報・データの生成とアクセシビリティ
・ ライフサイクルを通じた製品中化学物質情報の提供
・ 教育・研修・普及啓発の実施
・ GHSの実施・執行

戦略的目的 C

懸念される課題が特定され、優先付けされ及び対処されている。

ターゲット候補（例）・ 懸念される課題に関するプロセス・作業プログラムの設定・採択・実施

戦略的目的 D

人の健康及び環境への便益が最大化され、リスクが防止又は実行可能でない場合は最小化されるように、[関連する]**製品のバリューチェーン**において、より安全な代替及び革新的で持続可能な解決策が整っている。

ターゲット候補（例）・ グリーン・サステナブルケミストリー等に向けた企業によるイノベーションへの投資
・ 投資アプローチやビジネスモデルへの化学物質の適正管理戦略の統合等
・ 化学物質を使用する主要産業部門の化学物質・廃棄物管理戦略の策定と実施

戦略的目的 E

化学物質と[関連する]廃棄物の適正管理が、「持続可能な開発、ファイナンス及びビジネス」[のための][ステークホルダーによる][すべての]関連する**意思決定プロセス**に[透明性と説明責任]をもって組み込まれている。

ターゲット候補（例）・ 化学物質適正管理政策の開発戦略への統合
・ パートナーシップ・ネットワークの強化
・ 必要な資金・非資金的資源の動員
・ 気候変動、生物多様性、人権等の社会課題とのシナジー・関連性の特定と強化

科学・政策パネルOEWG1.1 結果概要

- UNEA5.2にて、化学物質・廃棄物の適正管理及び汚染防止の分野において、気候変動分野のIPCC及び生物多様性分野のIPBESに類する独立した政府間科学・政策パネルの設置を目指して、臨時公開作業部会の設置を決定。
- 2024年末の議論終了を目指し、10月6日に第1回会合が開催された。

【開催日】 2022年10月6日（木）

【開催地】 ケニア・ナイロビ+オンライン（ハイブリッド）

【概要】

- 今次会合は手続面の事項が主な議題で、実質的な議論は次回審議予定。
- 手続面の事項
 - ・ 役員を選出（未了）
 - ・ 手続規則の採択
- タイムテーブル（予定）
 - ・ 2023年1月30日～2月3日 OEWG1.2@タイ・バンコク
 - ・ 2023年 OEWG2、2024年第3四半期 OEWG3
 - ・ その間、各種関連会合で地域協議の機会を設ける
- OEWG1.2での議題
 - ・ パネルのスコープ、機能や体制を優先的に議論すべきとの意見が複数。
 - ・ 作業計画や予算についても議論したいとの意見もあった。

- 残留性有機汚染物質を国際的に規制するストックホルム条約による規制対象物質について検討する残留性有機汚染物質検討委員会（POPRC18）の第18回会合が令和4年9月に開催された。

【開催日】 令和4年9月26日～30日

【開催地】 ローマ・イタリア

【概要】

○リスク管理に関する評価の検討段階

① デクロランプラス（提案国：ノルウェー）【主な用途】 難燃剤

② UV-328（提案国：スイス）【主な用途】 紫外線吸収剤

⇒ ①②ともに、自動車、建設機械、農業機械、医療機器、分析機器等の修理用部品等のための使用を適用除外とした上で、廃絶対象物質（附属書A）への追加をCOP11（令和5年5月開催予定）に勧告。

○リスクプロファイルの検討段階

③ 中鎖塩素化パラフィン※1（提案国：英国）【主な用途】 難燃性樹脂原料

（※1 炭素数14～17までのものであって、塩素の含有量が全重量の45%以上のものに限る。）

④ 長鎖ペルフルオロカルボン酸（PFCA）※2、その塩及び関連物質（提案国：カナダ）

【主な用途】 フッ素ポリマー加工助剤、界面活性剤（※2 炭素数：9～21）

⇒ ③④ともに、次回会合（POPRC19、令和5年10月開催予定）においてリスク管理に関する評価を検討。

⑤ クロルピリホス（提案国：欧州連合）【主な用途】 殺虫剤

⇒ 今後更なる情報を収集し、次回会合（POPRC19）において議論を継続。